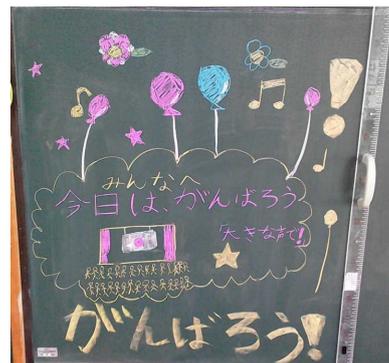


未来へつなごう 中川小144年の歴史～閉校への思いをこめて

この冬一番の冷え込みとなった2月9日(日)、多数のご来賓、卒業生、保護者や中川地域のみなさんが見守る中、144年の歴史に幕を下ろす「中川小学校閉校式」が行われました。体育館いっぱいになるほど多くの方々がお集まりになったのは、9月22日(日)に行われた「最後の三省まつり&閉校記念イベント」以来でした。これまで3,300名を超える卒業生を送り出している中川小の閉校にあたり、母校への懐かしさや熱い思いを確かめられているように感じました。



30名の子どもたちは、「144年目の最後の中川っ子」として、「感謝の気持ちを表し伝える」ことを大きなめあてとして式に臨みました。寒さで体がかじかみそうな心配をよそに、出だしの6年戸澤真穂さんの凜とした声で呼びかけが始まりました。66のフレーズと「ふるさと道」にこめた一人一人の思い・みんなの思いは、式場のみなさんにも十分に伝わったのではないのでしょうか。自分の母校となる中川小学校にとっての大きな大きな儀式をやり遂げた子どもたちは、充実感とともに改めて「感謝の気持ち」を深めたようでした。心から感動する閉校式となりました。



今日を含め卒業式まで「19日」、修了式まで「23日」の登校日数。残り少ない日々を、「最後の中川っ子」として一日一日しっかりと積み重ねていくことができるよう働きかけたいと思います。

明日は最後のPTA参観日～お待ちしております

閉校式の日を境に季節が変わったのかとも思うほど、先週後半からは寒さが緩み、雪解けがあっという間に進みました。今週からは、短い2月の後半を迎えています。

さて、明日は中川小学校の最後のPTA参観日です。前回12月の参観日は臨時休業となったため、授業参観は7月以来の7ヶ月ぶりということになります。閉校式をやり遂げ、次の学年へ向かう子どもたちの生き生きとした様子をご覧いただければ幸いです。また、今回は、ブラボー中谷さんご夫妻をお招きし、閉講記念講演会を予定しています。保護者の方々はもちろん、ご家族の方々、ご近所の方々もご都合がよろしければ是非おいでください。講演会の会場は、1階のなかよしホールです。

なお、椅子席でご覧いただく予定ですが、念のため寒さ対策の方もよろしくお願いします。



中川小学校閉校式のお話

本日は、多数のご来賓の皆様、本校の教育活動にご尽力いただいた歴代の教職員の皆様、全国各地から駆けつけてくださった卒業生の皆様、そして長きにわたり、この中川小学校の教育活動を支えてくださった保護者をはじめ中川地域の皆様のご参列をいただいたことに対し、心より御礼申し上げます。閉校にあたり甚だ僭越ではありますが、これまでの取組を振り返りながら、一言ごあいさつを申し上げます。

「朝夕のぞむ山々は、平和の光 照り映える♪」体育館の天井から降ってくる歌声に迎えられた3年前。100人、200人の学校にも勝る歌声の響きに、心が震える感動を覚えたのが昨日のこのようです。その時以来、全校のみんなで歌うこと、特に「校歌」や「ふるさと道」を歌う場面は、「中川っ子の歌声は、やっぱりこうだよね！」と、みんなで確認し合う「学校生活の節目」になっていると感じてきました。今年度は、11年ぶりに『大曲仙北小中音楽祭』に出演し、中川っ子の歌声を、広い会場いっぱいに響かせることができました。

また、本校では、「三省まつり」「三省タイム」をはじめ、特色ある教育活動が数多く行われてきました。民謡や手踊り、田植えや稲刈り、ニコニコ米販売、まなび一教室、水泳学習やスキー教室、おはなしコンサートなど、ボランティアの先生方に支えられ、充実した体験活動が行われてきました。これらを通して、地域に伝わる文化の継承、地域のよさの発見、学ぶこと・運動すること・本の世界や音楽に触れることの楽しさや大切さ、地域の方々の温かさなど、何度も実感することができ、豊かな心・素直な心の育成につながっています。

この「三省」という言葉は、かつては、この学校の名前でもありました。明治18年、小勝田村、川原村、山谷川崎村の三村連合で新たに設立された三省小学校。この名前は、「吾、日に三度、我が身を省みる」の一節から始まる論語の「三省の教え」に因んだものです。子どもたちには、2年前にもお話したことがあります。中川小学校「まどめの一年」の締めくくりに、「三省の教え」を、今一度、確かめたいと思います。

「私は、一日のうちで少なくとも三回は、自分の行いを振り返っている。」

- ①人に相談されたときに、真心を込めて聞いていたか。
- ②友達とのつきあいの中で、うそをついたり裏切ったりしてはいないか。
- ③自分が十分に分かっていないことを、分かったふりをして、人に伝えてはいないか。

これは、古くからの教えではありますが、今でも大切にしたい考え・態度です。これまで、6年生を中心に、いろいろな活動に取り組む際に大切にしてきたこと。それは、「見通し・めあての確認」、活動後の「振り返りとその共有」、それらを受け「次はどんな姿を目指すのか」という「次へのつながり」でした。一人一人の「夢カード」にも、同じ考えで取り組んできました。これらは正に「三省の教え」に通ずるものと自負しております。

子どもたちには、この中川地域で、古くから大切にされてきた「三省の教え」をしっかりと受け継いでほしいと願っています。そして、最後の卒業生となる4名の6年生をはじめ、30名の子どもたちが、「144年目の最後の中川っ子」であることに誇りをもち、「将来の夢・目標」に向かい、堂々と胸を張って歩いていくことを心より願っています。

これまでの本校の長い長い歩みは、地域のみなさんに愛され支えられてきた歴史でもあります。中川地域のみなさんが、「学校がなくなるのは、たまらなくさびしい。けれど…」と、子どもたちのことを第一に考え、覚悟を持って決断した「閉校」。

保護者の中からあがった、「自分も、自分の子どもたちも、お世話になったこの校舎に、『感謝の気持ちを表す機会』を設けてほしい」という熱い思い。

先月、仙北市役所生保内庁舎の議場で行われた「仙北市子ども議会」では、児童会代表の6年生が、「中川小学校が、自分たちと地域の方々にとどれだけ大事に思われているか」ということを踏まえ、「感謝の気持ちを表す活動」を行うことを宣言すると共に、「校舎の後利用」についての「思いのこもった提言」をいたしました。

このように、「中川小学校への愛校心、愛着」は、子どもと、保護者・地域の方々の「共通した熱い思い」であり、「閉校」は「終わり」ではなく、中川地域の「新たな時代のスタート」だと考えます。

ここ中川で育ち、「新たな世界」へ進む子どもたちにとって、いつまでも「あたたかいふるさと」であり続けることを願っています。



結びに、これまで中川小学校の教育活動を支えてくださった全ての方々、閉校に関わる諸事業にご支援・ご協力くださった方々に心より感謝申し上げます、閉校のごあいさつといたします。

令和2年2月9日

仙北市立中川小学校長 高橋 雅己